

熱い！使用中だけでなく使用後もやけどのおそれがある ～スチームクリーナーの安全性に関する商品テストを実施しました～

高温のスチームを吹き付けて汚れを落とす掃除用品の一種である、スチームクリーナー。手ごろな価格帯の製品も普及し、関心が高まっています。一方、「スチームが手に当たりやけどした。」「本体と噴出部をつなぐパイプに手のひらが触れてしまい、軽くやけどした。」等の相談も寄せられています。

そこで、東京都では、製品表面の温度測定の試験等により、スチームクリーナーの安全性に関する商品テストを実施しました。

東京都では、今回の結果を踏まえ、消費者へのアドバイスや関係団体への要望等を行います。



商品テスト結果

※ 商品テスト対象：5 検体（電気製品認証協議会が推奨する電気製品に関する安全基準に適合していることを示す「S マーク」が付与された製品は含んでいない。）

1 熱いのはスチームだけではない。使用中に製品表面が 80℃程度に上昇することも。【報告書 P8】

噴出口近くのスチームの温度は、4 検体において平均 90℃以上と高温を示しました。また、製品を使用している間は、製品自体の表面温度も上昇し、表面の最高温度が 80℃程度に上昇する製品もありました。

2 使用後も熱い！冷めるまでに時間を要します。【報告書 P8】

使用終了 10 分経過した後も、表面温度が 55℃以上を示した検体が 4 検体ありました（下図）。特に、給水口付近では、時間が経っても高温状態を維持しやすいことがわかりました。

また、全検体とも、表面温度が 40℃以下になるのに、30 分以上を要しました。製品が冷めたかどうか、外観からの判断はできませんでした。なお、使用後、冷めるまでの時間の目安が記載された製品も一部ありましたが（2分～10分程度）、試験結果と大きく異なりました。

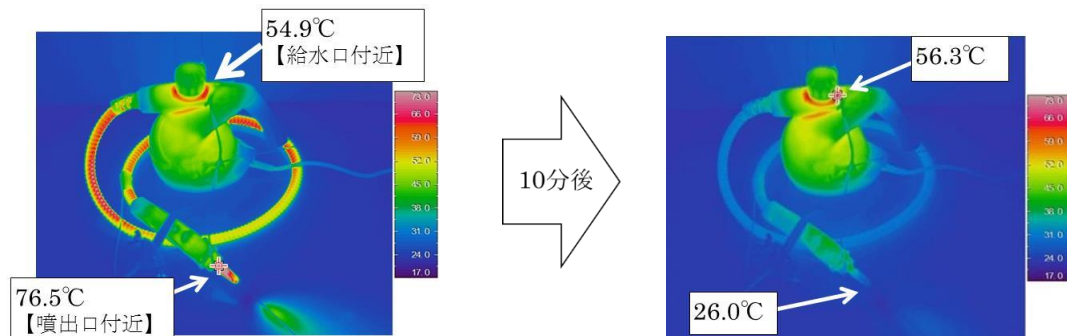


図 検体の表面温度変化【（左）使用終了直後、（右）10分経過時】

3 使用方法を誤ると、思わぬ危害につながります。【報告書 P13】

①部品の装着が不完全なまま製品を使用した場合、②電源を切ってすぐにスチームを噴出するスイッチを押した場合の再現テストを行いました。

その結果、①使用中に脱落した部品がスチームの勢いでさらに吹き飛ばされる、②電源を切っているにもかかわらずスイッチを押すとスチームが出る場合があることを確認しました。

4 問合せ先等が記載されていない製品も。【報告書 P15】

全検体とも、やけど等危害・危険への注意を促す内容や、子供に対する配慮を促す内容が記載されていました。一方で、問合せ先等について記載がない製品が 1 検体ありました。

【裏面へ続く】

詳しくはこちらをご覧ください。



<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp>



【問合せ先】

消費生活部生活安全課商品安全担当

電話 03-5388-3082

消費者へのアドバイス

スチームクリーナーは高温のスチームを発生させるため、製品自体も高温になりやすい等の特徴があります。使用する際は、以下の点に注意しましょう。

1 使用方法等を確認し、記載された注意事項を守りましょう。

- 部品を正しく装着し、ゴム手袋等の保護具を着用の上、使用しましょう。
装着部からスチームが噴き出したり、部品が脱落したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、使用中にスチームが当たったり、高温となった箇所に触れたりするなど、やけど等の危害に至る場合があります。
- 給水や収納は、製品が冷えてから、慎重に行いましょう。
運転停止後もしばらくは、製品が高温状態を維持しています。また、プラグを抜いても噴出スイッチを押すとスチームが出るおそれがあります。

2 周囲に人がいないことを確認してから使用しましょう。

使用中に子供が手などを出す場合があります。また、思いがけない方向に噴出したスチームが周囲の人に当たってしまう場合があります。

3 子供に触れさせないようにしましょう。

子供が誤って操作しないよう、ロック機能等を活用しましょう。また、使用後は、速やかに子供の手が届かないところに置きましょう。

※ 購入する際は、ロック機能などの安全機能が付与された製品や、Sマーク適用製品等の安全に配慮されたものを選択することも、事故の防止に当たっての一助となります。

要望・情報提供

- 要望
電気製品認証協議会に対し、安全な製品の普及について取組を強化すること等を要望します。
- 情報提供
国（経済産業省、消費者庁）や関係団体（一般財団法人家電製品協会、一般社団法人日本電機工業会等）に対し、消費者への注意喚起等への活用のため、情報提供します。